



熊本県球磨川流域豪雨災害、支援活動の様子

## 災害復興支援部 第二十四期活動紹介

災害復興支援部事務局長 仲野 なかの 大悟 たいご

災害復興支援部は、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）に設置されている災害等のボランティアに関する支援組織です。「全曹青ボランティア憲章」に基づき、全国組織のスケールメリットを活かし、全国会員と協働しお互いが支え合う社会の実現に向けて活動しております。また支援活動だけではなく、今後起こりうる地震災害や風水害などに対する寺院の対応策を考え、提案しております。

自然災害が多発する現状を鑑み、相互協力のための協約を締結した曹洞宗務庁や、またシャンティ国際ボランティア会、曹洞宗婦人会、さらに前期加盟したJVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）と連携し、発災時に迅速な対応ができるよう関係性を構築しております。

### ●今年度の支援活動

前期令和二年に発生した熊本県球磨川流域豪雨災害では、コロナ禍で県内在住者だけの支援活動を余儀なくされました。活動が制限されるではありません



「風を贈ろう」 仲野支援部事務局長より社会福祉協議会へ

が、地元曹青会と連携しながら支援活動にあたりました。第二十四期が始まり、昨年七月には復興慰霊祈願行事にも参加させていただきました。当日は宗派を超えて各地で法要が営まれ、復興への願いと犠牲になられた方へ祈りを捧げました。

また同時期に、豪雨災害から一年の節目を迎える熊本に、「風を贈ろう」と題し熱中症対策として仮設住宅へ扇風機をお贈りする活動を行いました。メーリングリストやSNSを活用し、全国の宗務所さま、ご寺院さま、加盟曹青会の方がたのご協力によって、目標台数三十台を上回る五十六台の扇風機を被災地へ届けることができました。人吉社会福祉協議会十九台、球磨村社会福祉協議会十九台、坂本社会福祉協議会十八台をそれぞれお配りし、夏本番に向けて活用いただきました。

### ● 研修会の開催

こうした支援活動を通して生まれたご縁から、昨年十一月には一般社団法人「OPEN JAPAN」さまより講師をお招きし、「現場力」その先の笑顔の為に」と題した研修会を全国会員に対しオンラインで開催いたしました。

「OPEN JAPAN」さまは宮城県のNPO団体で、球磨川流域豪雨災害の発災当初から、地元社協や地元団体、地元行政と連携し支援活動にあたられま

## 支援者として心がけていること

- ・ 支援の行き過ぎや過剰支援はなく、住人さんの自立に繋がる一歩を。
- ・ 縁の下の支援者として選択肢を増やし、住民さんのペースでの活動を。
- ・ 行政職員や社協職員も被災されているかたも、それぞれの立場に寄り添いながらサポートしていく。
- ・ 活動ノウハウを被災地域へ残し、支援者への育成を図る
- ・ 想いを胸に、その先の笑顔のために



研修会「現場力～その先の笑顔の為に～」オンライン開催



● 執筆者プロフィール  
災害復興支援部署局長

なかのたいじ  
仲野大悟

熊本県曹洞宗青年会より出向  
第二十三期 庶務

した。滞在型支援として、車中泊生活や地元施設を借りて寝泊りなど、実際に被災地で生活し、長期的な支援を行っています。また支援だけでなく地元行事などにも積極的に参加し、住民と一体になって活動されています。

実際に被災地で生活する講師方の経験をもとにただくお話から、被災者の気持ちに寄り添い、住民生活に即した支援活動の大切さを学ぶ研修会となりました。

大きな自然災害が頻発する近年、発災時に地域コミュニティの中心となるような、災害対応能力の高い寺院や僧侶が必要とされております。その要請に応えるため、行政と避難所活用協定の結び寺院も増えてまいりました。社会変化の影響を受け、災害復興支援の在り方も日々変化しております。現場で価値のある活動を継続していくことはもちろん、災害に備えるための活動も大切に、今後も真摯に取り組んでまいります。